

雑賀衆と鈴木孫一

雑賀衆とは

戦国時代末期(16世紀後半=西暦1500年代の後半)、紀ノ川河口一帯にいた人たち。

河口一帯は大きく5つの地域(十ヶ郷、雑賀荘、宮郷、中郷、南郷)に分かれていた。

各村々から代表者を出し、物事を決め、みんなで一緒に団結していた。

外国人は雑賀衆のことを「富裕な農夫」と表現、軍事力もある

ところが地域により宗教、経済地盤などが異なり、土地争いなどで分裂することもあった。

雑賀の地図



鈴木孫一

確実に生きていたのは1562~1584。生まれた年や亡くなった年、父母兄弟など不明。

1562年には十ヶ郷の有力者となっていた。

鉄砲をもって活動、雑賀衆のリーダーで織田信長らと戦った。

1584年の史料では鉄砲衆200人を率いた。

大谷にあった仏教(浄土真宗)の道場主。

平井蓮乗寺がゆかりの寺。



左 鈴木重幸

右 織田信長



◇ 鈴木孫一

のぶなが せんそう
信長との戦争

石山合戦 (1570~80)…織田信長と信長に反対する人たちの戦争。

原因

信長は大阪にあった本願寺に⇒軍資金を払うよう命令。

⇒大阪から退去するよう指示。

本願寺が信長に反対⇒雑賀衆も応援⇒孫一も応援。

※本当はもっと複雑ですが、省略します。

経過

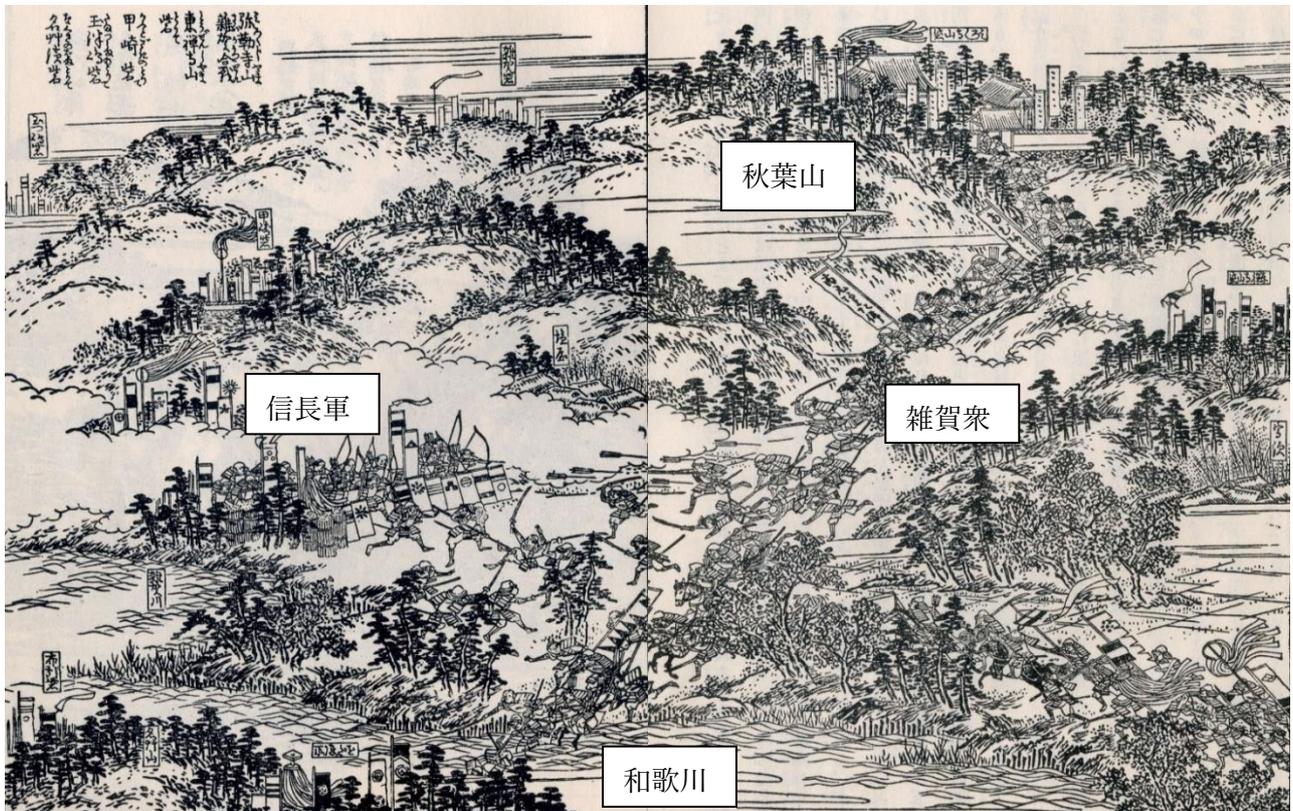
信長は本願寺を攻撃⇒本願寺の周辺の人々を攻撃⇒1577年雑賀を攻撃。

中野城での戦い⇒雑賀衆が負ける⇒平井?の孫一居城を攻撃⇒鉄砲で応戦。

小雑賀(秋葉山)付近の戦い⇒雑賀衆が鉄砲で信長軍を苦しめる。

結果

孫一ら雑賀衆のリーダーが降参⇒最終的には1580年、本願寺が降参⇒本願寺が雑賀へ



小雑賀(秋葉山)付近での信長軍と雑賀衆の戦い



◀雑賀鉢と呼ばれる兜

◻和歌山の火縄銃